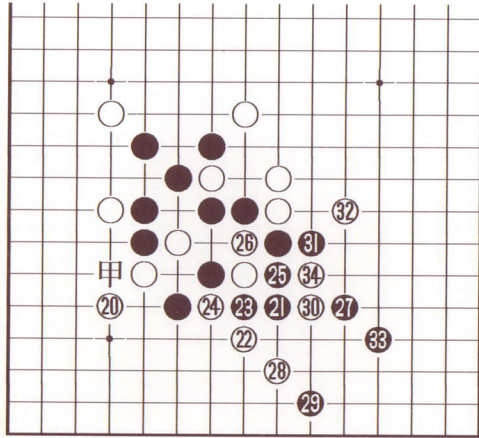


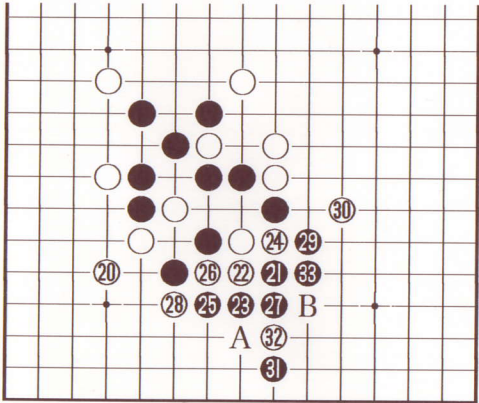
復刻版

河村定石



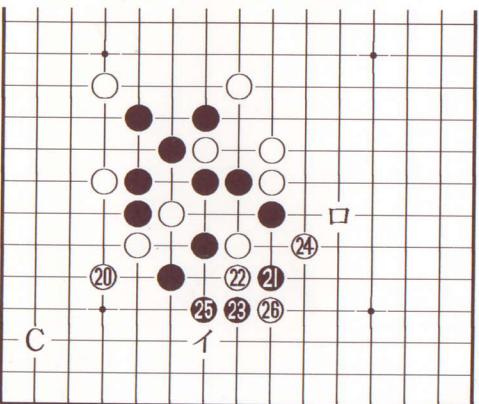
【Aのaその1】
この白20はつぎに甲からの引きだしをねらっており、単純な呼手ではいけません。そこで21とカドにうつのが好手です。
黒27のフクミに対し白28のノリ手が強く、これを止める黒29がまたフクミになっています。
黒33から番端に向かい黒49まで四追い勝ちです。(35以下略)
28を30に防ぐのは29を32にとびだして以下容易に勝ちがでます。「楽名」11~19図をあわせてお読みください。

次図は白22の変化。



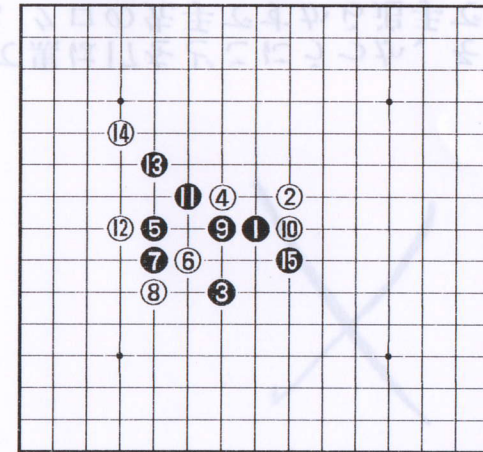
【Aのaその2】
この22に対しては当然のごとく黒23とうちます。白24に対し黒25とフクめば必勝でしょう。白も26ぐらいですから、黒27から打ちすすめ黒33後AまたはB。途中黒31が少し迷うところですが、べつにA33と全部ヒイてしまっても勝てます。

次図は白24の変化。



【Aのaその3】
白24をここに防ぐのも黒25を同じようにフクめば勝てます。しかしこの26止めの後の四追い勝ちに気がつかなければ苦労します。さらにCの四のびにも注意します。白24をIのように下から防ぐのは黒25をロと大きくミセル手があって白防ぎきれません。「楽名」9図の詰め連珠「初雪」をご覧ください。

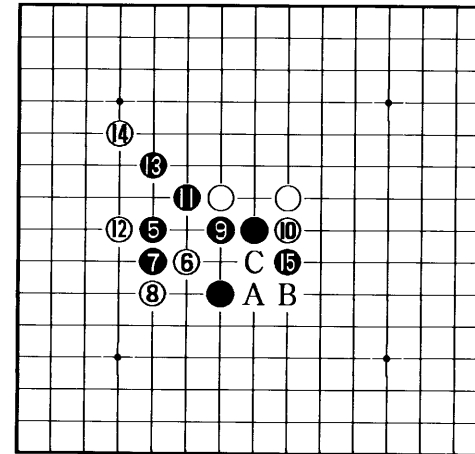
次図は白20がbの変化。



ところざわ連珠クラブ
光が丘 = 練馬連珠会

復刻版河村定石

河村典彦9段が京都連珠会の『珠友』に掲載された「名月一間飛びの解明」に説明をくわえて『連珠世界』に新解明シリーズとして発表されています。15年前の雑誌なので手に入りにくいと思いましたがダイジェスト式に復刻しました。「楽しい名月一間飛び」で触られている部分は省略して「楽名」としてページを記しました。

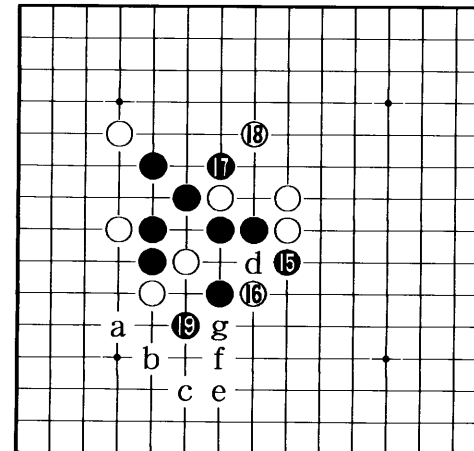


【基本図】

この白4までの形は、じつは嵐月からも発生するのですが名月の方がなじみが深いようです。黒15にいたるまでにも変化がいろいろありますが、いちいち採り上げていくとキリがないので省略します。

黒15までを基本図として白16がA～Cに防がれた時の勝ち方を順次解明してゆきたいと思います。

次図は16がAの場合。



【白A小目録】

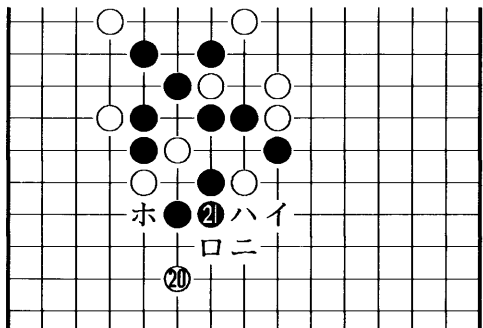
この白16が最強防で一間飛びはこれに尽きると言ってもよいでしょう。これに対して黒は17を一本効かしてから19にコスムのが定石です。また、黒17では16の二路右につきだす九州流もあります。

白20はa～fまでの防ぎが考えられます。

白dは詰め連珠「母情」となります。「楽名」27～34図をご覧ください。

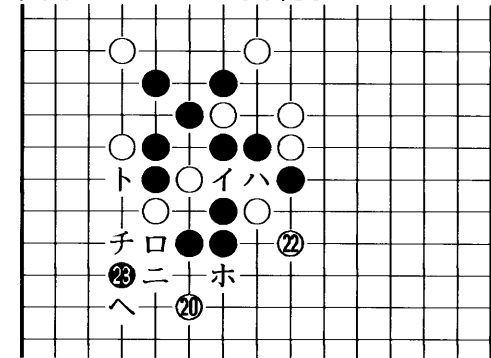
なお石谷5段がgに打った実践譜もあります。

次図は白20がaの場合。



【白Aのc小目録】（左図）
この白20にうかつに引くとあたり
ります。黒は21に組みます。白22
はイ～ホが考えられます。

下図は22がイの変化。



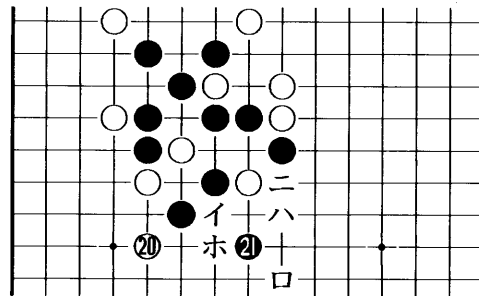
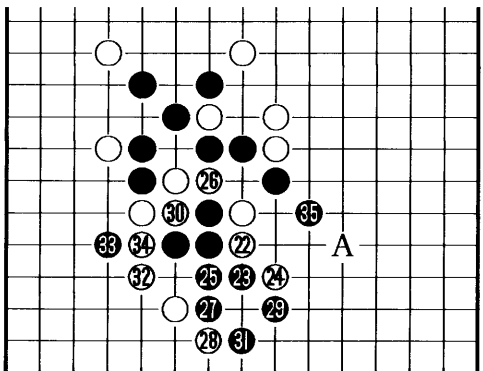
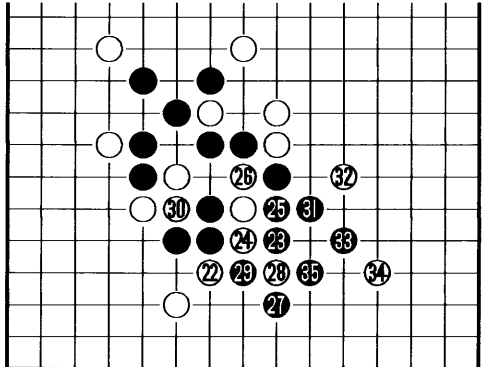
【Aのcのロ】（左図）
白22と追い詰めを誘ってきたら
追い詰めるしかありません。とす
れば黒25から31までは必然です。
白32反対は楽勝なのでこちらに止
めますが、そこで33とのびて35と
ひくのがポイントです。白36をい
ずれに止めても黒の四追いがあり
ます。

次図は白22がハ止めの場合。

【Aのcのハ】
この白22には黒23が好手です。
白24を25にひくのは前図にもど
りますので白24と変化します。黒25
から四ノビを効かして黒31と左右
をにらむのがうまい手です。白32
と先手をとっても黒35で依然手が
残ります。白34は仕方なく黒35後
Aまでです。

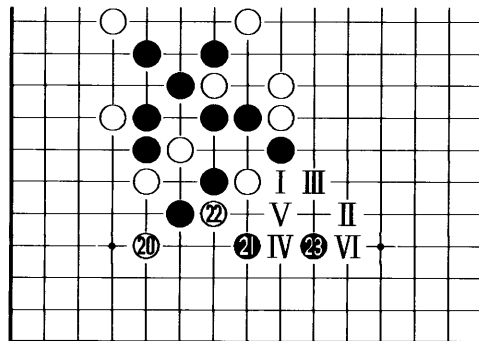
次図は白22がニ止めの場合。

【Aのcのイ】（右図）
白22はノリ手を利用した強防
ですが23の絶妙手で全四追い
になっています。黒23後イロまた
はハニホまたはハヘトチの三天
秤です。
下図は22がロの変化。

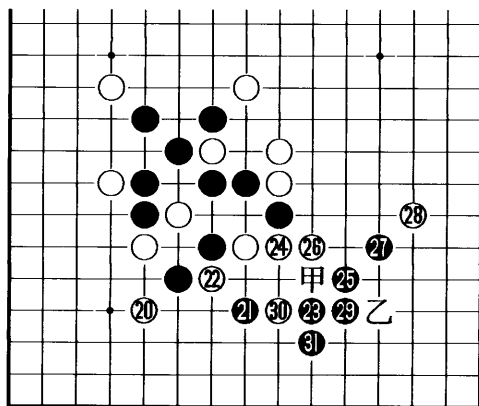


【白Aのb小目録】
この20が最強防とされています
これに対し黒21をイにうつのはハ
に防がれます。そこで黒21は図の
ように開くのが妙手です。
白22はイ～ホが考えられます。

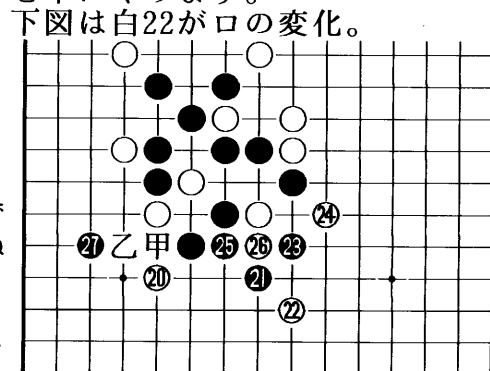
次図は白22がイの変化。



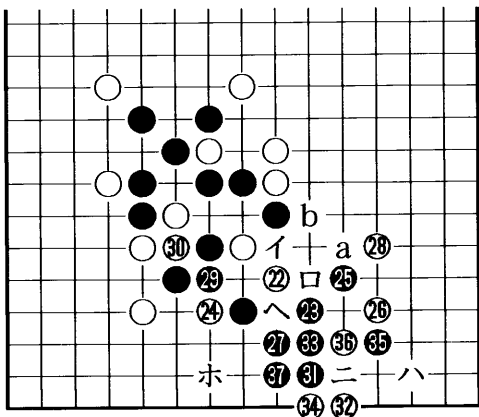
【Aのbのイ小目録】
白22はたいへん強い防ぎです。
これに23の一間開きが妙手です。
24の変化はI～VIが考えられます
変化IIは「楽名」第10問です。
変化IIIも第25図です。変化IV～VI
についても同図でふれています。
変化Iは次図です。



【AのbのイのI】（左図）
白24に対し形にはれて黒25を26
に打つと甲に割り込まれて勝てな
くなります。黒25はこのように開
くのが正解です。黒31まで組めれ
ば以下容易に勝てます。
なお白26が乙止めるときは黒27
を甲にくみます。
下図は白22がロの変化。

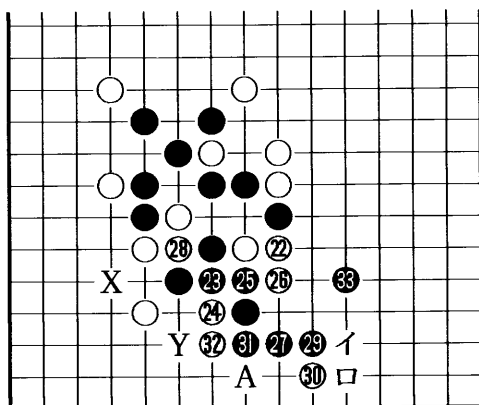


【Aのbのロ】（右図）
白22と下からたたく手が難物で
す。白24は右辺への進出は許さぬ
という手です。白28は甲と乙の2
カ所強防があります。
乙止めは「楽名」20～23図と同じ
です。次図は28が甲止めの変化。



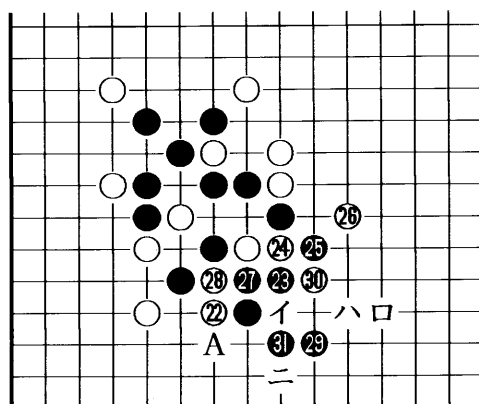
【白Aのbのハ 24の変化】
 この24には少し惑わされますが広く25と開きます。白26は急所です。白28止めなら29からひきだします。白の盤端を這うような防ぎが面白いのですがイロハニホへの四追いがあります。
 白28止めが反対なら黒33とふくみ、以下36, a, bと右辺で勝ちをだします。

次図は22がニの変化。



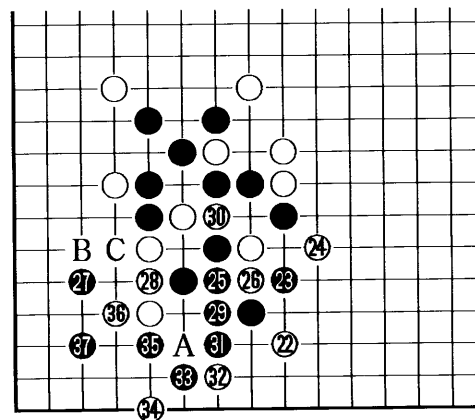
【白Aのbのニ】
 この白22に対しては23に構えます。24は急所ですが25にひき27とのび29に組みたてます。この黒29はフクミにはなっていませんが、つぎに白がXにフクんだときYにきりかえすねらいがあります。白は仕方なく30に防ぎますが、黒はゆうゆうと31にひいておけば勝てるでしょう。33後Aまたはイ口。

次図は22がホの変化。

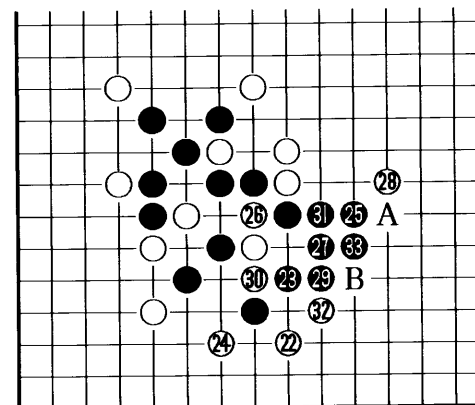


【白Aのbのホ】
 白22といきなり急所に打ってきたら23とフクみます。白も24ぐらいですから27までひきます。白26の反対止め、28の外止めはいずれも簡単に勝てます。黒29と単に打つのがうまく（これで口の四ノヒが効く）30の止めを待って31に打ちます。31後Aまたはイロハニ。

次図は20がcの変化。

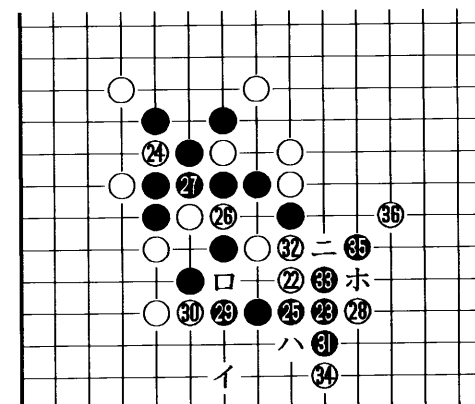


【Aのbの口の甲】
 この28も強防です。こう打たれたら、へたな呼手は打たないで黒29~35まですべて引きまくって黒37に止めておきます。するとこの手がAまたはBの両ミセになっています。
 注)「連珠世界」1998年10月号に28がC止めの通信戦の戦譜が載っています。講評をされた磯部9段は28の最強防はB止めであると解説されています。
 次図は白24の反対止め。



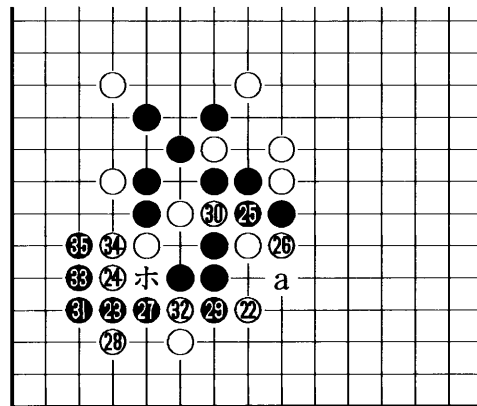
前図のすばらしい勝ち方を知っている人にとっては、この白24の防ぎには、かえってとまどうかもわかりません。ここでも黒25と広く打ちます。25で27につきだすのは25にたたかれます。広いところでは広く打つのが肝心です。黒29がうまく、白30の最強にも31と引けば容易です。33後AまたはB。

次図は白22がハの変化。

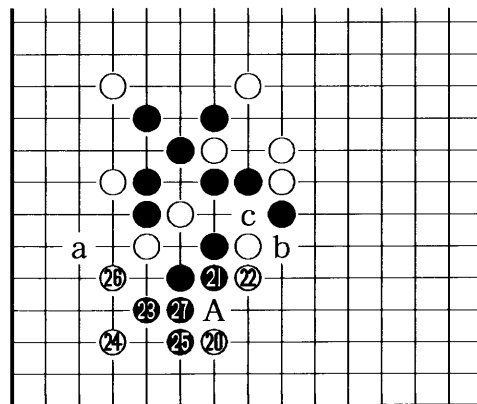


【白Aのbのハ】
 この白22に対しては当然23とタタキます。白24が黒にとって少し恐いのですが、気にせず追い勝ちにしてしまえば良いのです。
 黒25と引き29とのびてから31にフクみます。白32のノリ手みこみの防ぎにも33とひき白34の反対は四追いなので34に防ぎますが黒35で両四追いです。37よりイロハニホ。白28の反対は黒32 33 とフクみます。
 次図は24の変化。

参考資料 「連珠世界」より

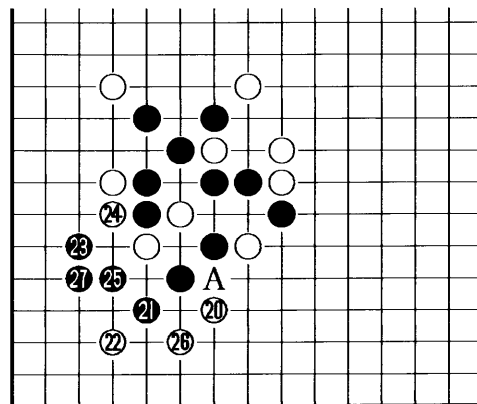


【Aのcの二】
 白22は、黒21に組みます。次に23、26後aまたは22後A、bがありますので、23とひいては容易でしよう。白22をcなら26、23にミセれば終わっています。



【Aのe】
 この20に対しても黒21に組みます。次に23、26後aまたは22後A、bがありますので、23とひいては容易でしよう。白22をcなら26、23にミセれば終わっています。

次図は白20がfの場合。

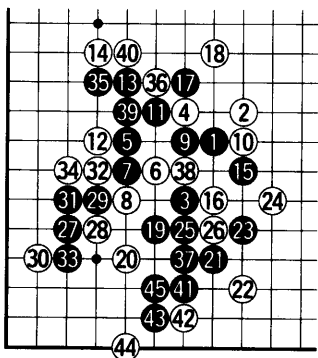


【Aのf】
 ところで、なぜ白20をこのように打たないかと申します。筋を牽制している（前図では白26がトビになる）
 白20をAも同じ理屈です。

次図は白16がC止めの場合。

●45にて白投了

(5-6)



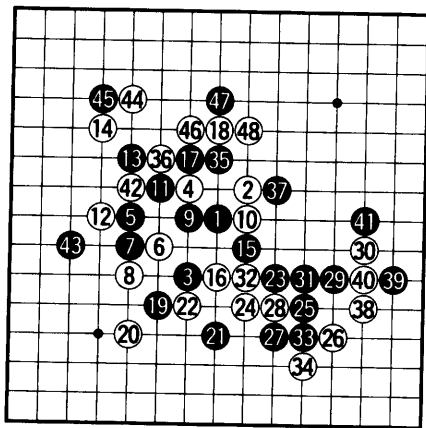
黒 三段 岡部 寛 (11分)
 仮先白 二段 鶴浦 一久 (15分)

第1・2局を、軽々と連勝した両者の対決。
 仮先の鶴浦二段は名月を打ち、一間飛びの作戦を明らかにしました。4週間前にも、この両者によって一間飛びが打たれています。その時は鶴浦二段が白22で25と変化し

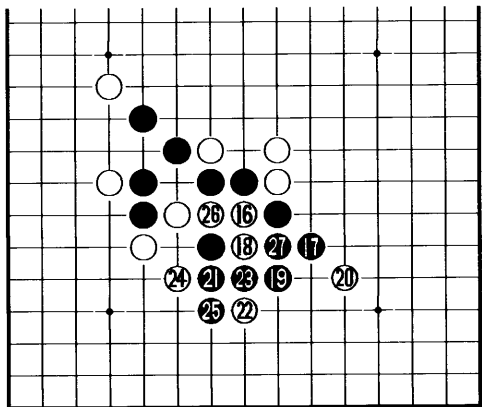
て、岡部三段の無理攻めを切り返し、盤端ギリギリ三々禁で逆転勝ちを取っています。それでも、ノータイムで先後交替、黒5でも11に打たず、局面は有名な定石通りに進んで行きます。白28までは一定形で、黒29は実はハマリ。傍目には(実は対局者にも)完璧な黒勝ちにも見えなかったようですが、白30で33と先ノビすれば、黒勝ちは出ませんでした。黒31からは、一度打ったことのある手順でした。

○48にて黒投了

名月 黒 五段 大川内清士 (佐世保)
 白 五段 卵 坊 (神戸)

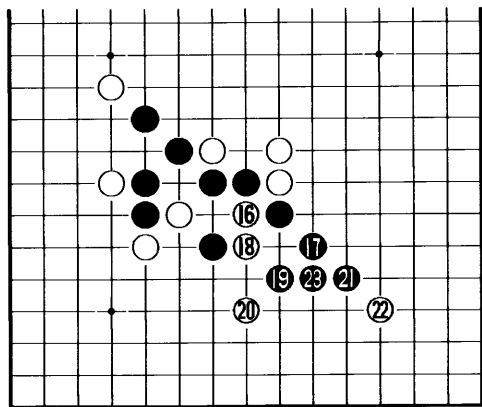


名月一間トビで16の防ぎは今では誰も打つが、坂田第五名人によって世に現われた手で、連珠の防ぎの真髄を示している。17から19は、関東流と言われている。しかし、これとて坂田名人の研究の範囲であったと思う。23は17を打たずにここに打つのが九州流で急所だが、今は急所を外れた。難しいものだ。(泰)



【白Cその1】

この白16も有力な防ぎですが、これには17と突き出します。白18は絶対らしき手ですが19と組めば余裕でしょう。白20と防いでも21から追い詰めで黒27後両四追いとなります。

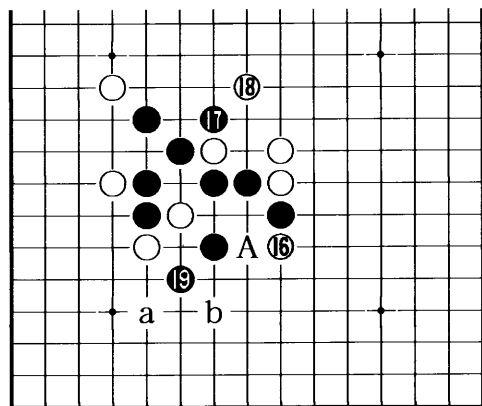


【白Cその2 20の変化】

白20がここなら黒は21.23 とひきます。

(河村9段の解説はここで終わっています。「斉藤本」も同じ記述です。)

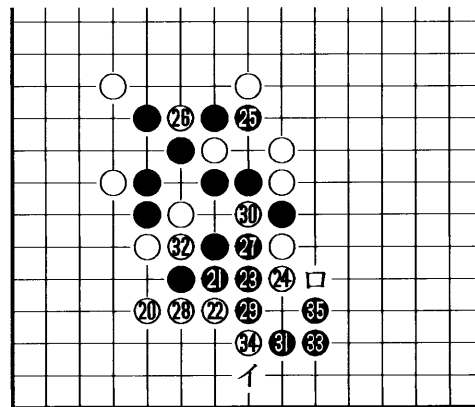
次図は白16がB止めの場合。



【白B小目録】

この16も強防として知られていますが、これに対しても黒19まで組むのが定石です。しかし16をAに打つのはよりは弱防といえるので重要な変化さえマスターすれば恐いものなしです。白20はaとbの2カ所が考えられます。

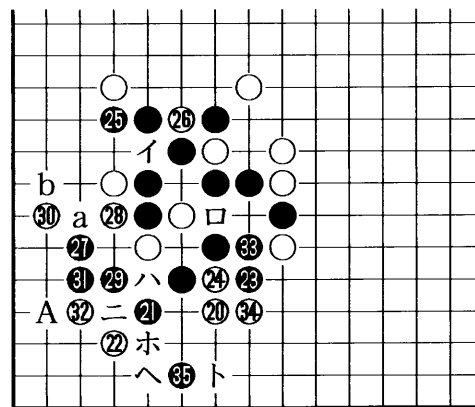
次図は白20がaの場合。



【Bのa】

この白20には黒21と組むのが絶対形。白も22と押さえますが23とひいた後25と三三禁を解消するのが簡明です。黒35以下簡単です。34がイなら35は口に打ちます。

次図は白20がbの場合。



【Bのb】

この白20が最強です。これに対しては21とひいて23に黙って割り込んでおきます。白24は最強の抵抗ですが31まで組み立てて白の防ぎを待ちます。白32といやらし所に防いでノリ手に期待しますが黒33. 35がノリ手をかわす好手で後イロハニホヘトの四追いがあります。白32がAなら黒はa bと両ミセをうちます。

この図は詰め連珠「通天閣」「斬新」の変化図になります。あわせて「楽名」35~46図をご覧ください。